

流通経済大学 学報

RKU Today

AUTUMN/WINTER 2018

留学余話

ユタ州留学体験談



流通経済大学

vol.36

04 留学余話

文・写真：井垣竹晴(流通情報学部教授)

ユタ州留学体験談

08 Close Up!

流通経済大学

[教職員紹介]

10 【馬場啓一のRKUウォッチング】

文：馬場啓一(法学部教授)

イギリスで学んだこと

長野桃華さん 社会学部 国際観光学科2年

12 【OB/OG訪問】立川が聞く。

取材：立川和美(社会学部教授)

中村邦浩さん(1983年3月卒業・株式会社NESI代表取締役社長)

14

新任職員紹介

14 流通経済大学創立50周年

流通経済大学50周年記念事業募金に
ご協力いただいた皆様(5)

15 付属柏高等学校ニュース

第34回流輝祭(付属柏高校文化祭) /
全国高校7人制ラグビーフットボール大会で
初優勝(部活動報告)

16

NEWS & TOPICS

日本運動・スポーツ科学学会第25回大会で学会賞受賞 / 企業研究ゲームマザーズ合同ゼミプレゼンテーション大会 / 硬式野球部 秋季リーグ優勝 / 第53回つくばね祭開催 / 3つの物流センターを見学 / 小学校で異文化交流会 / 2018年度第1回全学科一斉FD研修会 / 全日本学生トライアスロン選手権 / 両キャンパスでハロウィンパーティを開催 / クリスマスコンサート開催 / 留学生ゼミの合同発表会と企業訪問 / 留学生3人が「第21期まつど国際文化大使」に / 北京で国際交流プログラムを実施 / 龍流連携事業実施 / 永年勤続表彰 / 八重山毎日新聞が、学生の石垣島エイサー参加を取材 / 「2018年ジュニアスポーツアジア交流大会」で留学生が通訳ボランティア / 流通経済大学出版会から新刊のお知らせ / ロジスティクスシンポジウム開催 / 連携市民大学講座 / 第43回ヨーロッパ研修旅行 / 後援会総会開催



日本を知るためには
国内にいて探るより、
一度海外に出て、これを見つめなおす、
ということも大事である。
日本という国が、外からどう見えるか
それを検証するのだ。
異なる位相で見つめる日本は
新鮮なはずである。



留学余話

ユタ州留学体験談

2017年4月からの1年間、大学の教育留学制度を利用して、アメリカのユタ州ローガンという街にあるユタ州立大学で、在外研究を行わせていただきました。留学は積年の夢だったこともあり、あっという間の1年でした。研究以外にも休暇を利用しアメリカ各地を旅行したりして、これまでの人生で経験したことのないような充実した日々を過ごすことができました。滞在した1年間の体験についてまとめましたので、興味のある方はご一読ください。

流通情報学部 教授 井垣竹晴

ユタ州とは

私の滞在了ユタ州は、アメリカの中西部にあり、夏は比較的涼しく、冬は厳しい寒さで知られます。私が滞在了年の冬は、幸いにも温暖だったらしく、研究室のメンバーには「あなたはラッキーだね」と言われました。州都はソルトレイクシティで、2002年の冬季オリンピックの開催地です。ユタ州といえは、末日聖徒イエス・キリスト教会(いわゆるモルモン教)の聖地であり、住民の6〜7割がモルモン教徒であると言われています。ソルトレイクシティの市街地に、モルモン教の総本山である「テンプルスクエア」があり、いつも多くの観光客で賑わっています。クリスマスにはソルトレイク神殿など主要な建物がライトアップされ、とてもきれいです。

モルモン教に関しては、市街地から車で15分ほどの距離にある「This is the Place」という史跡も興味深いです。19世紀、迫害を受け、東部から長い旅をしてきたモルモン教徒の「団が、最終的にソルトレイクシティを永住の地と決めたわけですが、そのときのリーダーであったブリガム・ヤングが最終到達地点と宣言した場所が史跡として保存されています。ここでは開拓時代の様子が再現され

た村も見学でき、当時の生活を垣間見られます。

実際にユタ州に住んでみると、確かにモルモン教徒の方に多く出会います。町中のレストランで食事をしていくと、モルモン教徒の方に、「日本人ですか?」と話しかけられることが数回ありました。話を伺うと布教のため日本に行っておられたということでした。私を含め信仰を持たない多くの日本人は宗教に対して身構えてしまうことも多いですが、とても気さくな方はかりでした。

ローガンでの生活

私が滞在了したのは、ソルトレイクシティから、車で1時間半ほど北上したローガンという街で、街の一角にユタ州立大学があります。地方の大学といふこともあり、大学の敷地はとても広く、また建築物はいずれもきれいで趣のあるものばかりでした。

住居ですが、大学まで車で10分程度のアパートメントに住みました。アメリカのアパートメントは、部屋に冷蔵庫や洗濯機など基本的な設備が備わっていても便利でした。感動したのはオープンです。肉や魚、ピザやパイなどが、オープンだと手軽に焼けて、しかもとても美味しいので



す。日々の食事ですが、近くのウォールマートなど大型のショッピングモールで数日に二度、大量に食材を買い込みました。肉などが本当に安くて、10ドルも出せば、アンガス牛などの高級な牛肉も購入できます。毎晩のようにオープンで肉を焼いて、ワインを片手に舌鼓を打ちました。

外食もたくさんしましたが、私が滞在中に食べたのは、「[Chick-fil-A]」という、チキンのみを扱うサンドイッチを提供するファストフードです。このチキンは絶品で、滞在中に何度も通いました。北米で展開されていますが、世界進出はまだのようです。私にとってアメリカに行けば真っ先に訪れたいファストフードになりましたが、企業理念により日曜日は休業なので注意が必要です。

研究活動

私は心理学のなかでも行動分析学という分野でハトやキンギョなど動物を用いた研究で博士号を取得しました。ユタ州立大学の心理学部にはさまざまな心理学分野の教員が多数在籍していますが、私は研究領域が非常に近いShahan教授の研究室にお世話になりました。1年間、彼のラボミーティングに参加させてもらうことで、アメリカの研究者の研究活動をうかがい知ることができました。日本の大学教員は、研究と教育をバランスよくすることが求められますが、アメリカでは役割分担がはっきりしていて、研究室を持つ研究者は、教育よりも研究に専念します。Shahan教授も、授業はコマのみ担当し、あとは大学院生への指導を通じて研究活動を行っています。実験も彼自身が行うことはなく、すべて研究室の大学院生や研究費で雇われたスタッフがを行います。そのかわり、研究成果を論文として公表し続け、なおかつ研究室を維持するために研究費を取得しなければなりません。ある時、1億円(！)近い研究費を取得したということで、そのお祝いの飲み会に参加したのですが、話の合間に「研究費をずっと取得し

続けるのは辛いよ」と弱音も漏らしていました。アメリカで研究室を維持するのは大変なのだと感じました。

ラボミーティング以外にも、関心を共有するさまざまな研究室のメンバーが集まるセミナーが毎週開かれており、ここでは最新の論文や書籍についての輪読が行われ、活発な議論がなされていました。他にも定期的な大学院生の研究発表や招聘した研究者の講演会が開かれていて、久しぶりに研究に明け暮れる日々を過ごすことができました。

私がユタ州立大学で行った研究ですがテーマは「反応復活(resurgence)」と呼ばれる、以前に訓練され消去された行動が、さまざまな要因で復活する現象を扱いました。例えば、喫煙などの依存行動は一度禁煙に成功しても、禁煙プログラム終了後に喫

煙と結びついていた刺激に出会うと復活してしまうことがわかっていました。この反応復活のメカニズムを調べることが期待できます。私は、ハトを用いて、この反応復活の起こりやすさを決める要因について研究しました。実験装置やプログラムの作成に手間取り、実際に実験が始まったのは、夏も終わって10月からでした。

ハトの実験装置を他の学生とシェアせねばならず、割り当てられた朝早い時間から昼過ぎまで実験を行いました。冬はまだ日も明けない暗い時間から実験を開始することになり、真冬で雪が降っている早朝は特に大変でした。しかし、このような動物実験は大学院生時代にも行っていたので、懐かしい気持ちにもなりました。



国立公園巡り

研究留学中ではありませんでしたが、休暇を利用して観光もしました。特に記憶に残ったのは、夏休みを利用して、アメリカの中西部の国立公園を車で周遊した旅です。目的地は大まかに決めて、気ままにアメリカの壮大な自然の中を車で走り、夜になれば適当にモーテルで宿泊する旅は本当に楽しかったです。アメリカの国立公園はスケールが広大で景観が素晴らしく、一日中見ても飽きません。この旅では、ザイオン、ブライスキャニオン、グランドキャニオン、デスバレーといった国立公園めぐりました。国立公園の素晴らしさに気づいてしまい、この旅が終わった後も休日を利用して、イエローストーン、ティートン、キャピトルリフ、キャニオンランズ、アーチーズなどの国立公園を巡りました。

アメリカで国立公園を巡る場合は80ドルで購入できる年間パスポートがおすすです。どの国立公園も入場するのに平均30ドルくらいかかるので、3つほど訪れれば元は取れます。アメリカ全土で、国立公園は59あり、多くは中西部に集中しています。国立公園を訪れた記録を残せるスタンブ帳もあり、購入しました。生涯を



かけて、すべての国立公園を巡りたいですね。休暇を利用して国立公園を巡りすぎたからでしょうか、車の走行距離は、1年弱で約2万5千キロになりました。3月にShahan教授宅でお別れ会を開いてもらったのですが、走行距離の話をするとおまへはクレイジード」と言われました。

最後に

このように楽しかったアメリカでの留学生活は、本当にあっという間に過ぎました。アメリカでの日々と、日本に帰ってきてからの平常の生活のギャップがあまりにも大きくて、今でもあれは夢だったのではと思うぐらいです(笑)。留学によって、これまでの教育活動から解放されて心機



一転できましたし、何よりも心理学の最先端の研究に触れることができました。ただ、大きな収穫でした。ただそれなりに年をとってからの留学というので、早朝からの長時間の実験を辛く感じるなど、体力的な問題もありました。もし大学生の方で留学を考えている人は、ぜひ若い間に(気力体力、そして時間のある間に)留学に行かれることを勧めます。留学は、さまざまな人と出会い、さまざまな体験をすることで、皆さんの可能性を広げてくれるでしょう。最後に、このような貴重な留学の機会とその支援をいただいた本学の皆様には心より感謝申し上げます。





[経理課]
若山昌弘
Masahiro Wakayama

学内は、いつもキレイです

私は、本学を2012年に卒業した44期生です。卒業後、事務職員として入職し、現在は、経理課で日々の業務に取り組んでいます。

さて今回は、私が日々感謝していることを紹介したいと思います。

みなさんは、大学の各所で作業着を着た方々を見たことはあるでしょうか。おそらく記憶になくとも、一度は見たことがあるでしょう。この方々は、主に学内の清掃をしており、教室や事務所、トイレや中庭など、学内全般の清掃作業をしてくれています。もちろん、それが業務なので当たり前と思うかもしれませんが、しかし、私はその当たり前に感謝することを心がけています。

みなさん、学内を見回してみてください。清掃以外にもさまざまな作業をしていることや、そのおかげで学内がキレイに保たれているということがわかるとと思います。私は、これからも感謝の気持ちを持って、作業してくれている方々に気持ちの良い挨拶をしようと思います。



[スポーツ健康科学部]
三木ひろみ 教授
Hiromi Miki

終わりも始めと繋がる「連続体モデル」の応用

2017年に新設されたスポーツコミュニケーション学科で、「スポーツ関連英語」「省察学習論」や体育科教育の科目を担当しています。元々はスポーツ社会心理学が専門で、対人競技の選手が対戦相手を捉えて攻略する過程について研究していました。前任校では、「心理学なら統計も?」との憶測から教職科目「教育情報処理」担当として採用され、教員にならない教職履修生のためにキャリアプランニングの授業を始めたり、「留学経験有る?」と「専門語学」も担当することになって、英語の卒業試験に苦労していた学生の補習授業を始めたり、「心理+語学?」と留学生相談室に派遣され、国際交流協定校の研究者とサマー・スクールを始めたりと、次々課題を追いかけて現職に至りました。目下の関心は、スポーツ人材育成へのAI技術の活用です。大事なことは、今確信していることと同じように真逆の可能性も信じていること、人や心が大事だからこそ技術を最大限活用する。対立しているように見えるものも実は連続線上にあり補完合っている、これは、スポーツ社会心理学で学び、常に変わらない指針です。



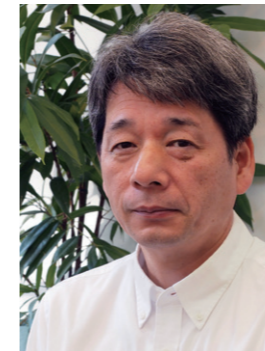
[法学部]
塚田桂祐 教授
Keisuke Tsukada

実務経験を活かして、わかりやすく

茨城県筑西市の出身です。よろしくお願いたします。

2016年4月から法学部で防災政策と警察消防行政を担当しております。総務省ほか中央省庁と埼玉県、徳島県、新潟市など5つの自治体で勤務し、2011年3月の東日本大震災時には消防庁国民保護防災部長として緊急消防援助隊の派遣を指揮しました。講義では、そうした実務経験に基づいた実例を紹介しながら学生に防災や警察消防を身近に感じてもらえるよう心がけています。

例えば、危機対応の初動時には、「リーダーは限られた情報を基に瞬時に判断しなくてはならない」「往々にして軽微な被害が先に報告され重大な被害は遅れて報告される」「不正確な情報も当然上がってくるが、叱ってはいけけない。そうすると必要な情報が上がってこなくなる」といった情報に関する教訓を紹介したり、長期の活動時には「不眠不休はダメ」「適時の人員の交代を」など体調管理とロジスティクスの重要性を強調しています。



[流通情報学部]
林 克彦 教授
Katsuhiko Hayashi

物流にイノベーションを

2007年度に流通情報学部に着任しました。ロジスティクスビジネス論、国際物流実践講座、全国通運連盟寄付講座、ゼミ等を担当しています。労働力不足の深刻化やネット通販の急増をきっかけに、新聞、雑誌では「物流危機」「宅配便クライシス」といった報道が相次いでいます。しかし、物流の現場ではさまざまな対策が進められています。

身近な宅配便の分野をみても、ターミナルの自動化や幹線トラックの大型化、受取ロッカーの整備などが進められています。皆さんも、いつの間にか受取ロッカーが駅やスーパーなどに設置されていることに気づいているのではないのでしょうか。夏休みに見学に行った中国では、ドローン（小型無人機）の実用実験が行われており、杭州のビルの谷間の駐車場にスマホで注文したコーヒーを届けてくれました。

今日の物流問題は、イノベーション（技術革新）のチャンスでもあります。講義やゼミの場を通じて、皆さんと一緒に物流イノベーションを考えていきたいと思っています。



[社会学部]
岩崎 卓 講師
Takashi Iwasaki

東京2020オリンピック

1995年4月に職員として採用され、学生部や体育指導センターの職務経験を経て2010年4月から社会学部の講師に着任しました。私自身、本学の柔道部に所属していた関係で就職2年目から監督を任せられ、現在も監督としてチーム強化に携わっています。

さて、いよいよ東京でのオリンピック開催が間近に迫ってきました。私はロンドン、リオの2大会に柔道競技のコーチとして参加し、現地の大変な盛り上がり肌を感じました。開催国の国民がボランティアで多数参加していて、一人ひとりがオリンピックを楽しみ、選手たちとの会話や触れ合いのなかで国際交流をしているのが印象的でした。

オリンピックという一大イベントでは世界中から選手や観客が集まります。普段以上にさまざまな国の人々と知り合える国際交流のチャンスとも言えるでしょう。皆が楽しめて、思い出に残る大会になることを願っています。



[経済学部]
加藤祥子 准教授
Shoko Kato

カラスは何色ですか?

「カラスは何色ですか?」と尋ねると、たいていの人は「黒です」と自信を持って答えます。次に「あなた今、『黒』と答えましたが、それはなぜですか?」と尋ねると、一瞬、言葉に詰まったあとで、こう答えます。「自分がこれまでに見たカラスが黒いからです」

経験に基づいて問題に対する答えを出す、これを帰納法といいます。帰納法は、多くの場合に当てはまる結論を合理的に導くことができる、というメリットがあり、私が専門とするマーケティングの研究でも広く用いられています。

例えば、「消費者調査で90%の人が、この商品を使って良かったと回答しました」という広告をよく見かけます。こうした調査結果は、残りの10%の人々の回答は除外しています。もし、地球の裏側に青いカラスがいたとしても、帰納法では「カラスは黒」なのです。

私は大学院生の頃に聴講したある授業で、「研究者は自制心を持たなければいけない」「調査結果の示す内容が、すべてに当てはまるかのように主張するのは乱暴なことだ」と教えられました。今でも時折、思い出しては反省しています。

馬場啓一の
RKU
ウォッチング
RKU Watching



●長野桃華／ながの・ももか

1999年、千葉県浦安市出身。流通経済大学付属柏高等学校から本学の社会学部 国際観光学科に入学し、現在2年生。2018年3月11日から8月26日にかけて、イギリス チェスターカレッジでの異文化研修を経験。



【第29回】
国際観光学科2年
長野桃華さん

Momoka Nagano × Keiichi Baba

イギリスで学んだこと

英国南部の古都チェスターにて、2018年3月から8月までの約半年間、語学研修を行った長野桃華さん。
社会学部国際観光学科の2年生である。

「幼い頃から外国に興味があり、早くから語学教室にも通っていました」
本学の国際観光学科を選んだのも、その理由による。

「将来の希望は国際線のCAです」
キャビン・アテンダント。今も昔も学生に人気の職業だ。「実は一方で新体操にも取り組んでいて、こちらも結構自信があります」
小学校2年生から高校3年までやっていた。

「現在は教える方にまわっています」
とここで、念願だった長期海外滞在の感想を聞いてみた。

「チェスターは日本でいえば鎌倉みたいなところで、落ち着いた良い街です。お年寄りが多いという印象です」
住みやすそうである。大いに羽根を伸ばし、得意の語学力を生かしてエンジョイしたことと思いきや、意外にも、

「行く前はかなり自信があった英語力でしたが、見事に鼻をへし折られました」
現実の壁は高かったらしい。「つくづく思うのは、日本の語学学習がヒアリングに傾きすぎ、ということですね」
意外なことを言う。

「ヒアリングには自信がありました」
相手が何を言っているかは、わかるのだ。「ですが現実の場面では、黙って聞いているだけでは駄目なんです。特にディベートでは。とにかく自分から積極的に話す

こと。そして、その内容を相手にしっかり理解してもらうこと」
言葉によって相手をねじ伏せしてしまう、そういう果敢さが必要という。言葉を駆使する能力と同様か、それ以上に。

「必要なのは度胸か、思い切りの良さ、かもしれません」
そしてこれはディベートに限らず、日常の生活においても同じだというのだ。

「日本にいて、そういう強さはちょっとキビシイでしょう。完全に浮いてしまう。でも、今回の英国での寮生活では、そういう日本の控えめさ、のんびりし

た感じは世界に通じない、と知りました」
世界中から集まる若い人たちとの寮生活を体験したことで、日本的な対人関係とは大きくかけ離れた、グローバルな作法や要領を会得できたという。

「慣れないうちは戸惑いと、焦りばかりでした。でもこれじゃいけないと、考え方を改めました」
悔しそうだが、それを体験し、乗り越えたことで、逆に自分の生き方に反映させようとする、強い意志を感じた。若さである。「国際線のCAという仕事には、今回の研修で学んだような強さってすごく重要な資質だと思うんです」
スラリとした長身からあふれるしなやかさ、パワーがあれば、十分その職責を果たしていけるのである。
「そして勿論笑顔ですね。だってヤマトナデシコ、ですもん」
大いに期待したい。



失敗を恐れず
チャレンジすることが
成長の糧。
明るくポジティブな発想を。

——先日、龍ヶ崎キャンパスにお越しいただきまして、ありがとうございます。現在の本学にはどんな印象を持たれましたか？

久しぶりにキャンパスに伺ったのですが、だいぶ様変わりしていて驚きました。私が在学していた頃は、もちろん現在と同様に学生で活気に満ちていましたが、まだ経済学部のみで単科大学でしたので、もう少しこぢんまりした感じでした。先日、野尻学長とお話しさせていただいたり、学内の施設を拝見したりしまして、大学の規模も大きくなり、当時に比べ学ぶ環境が整っているなど感じました。

——水戸のご自宅から、4年間通学されたということですが、大学生活はいかがでしたか？

係の仕事に就きたいと考えるようになりまして。最初に就職した会社では、当時まだバブル景気の前でしたが、海運の物流管理関係の仕事が大量にありまして、入社して日が浅かった私でもかなり大きな仕事を任せられました。

——毎日バリバリ働いていらしたのですか？

若かったこともあり、正直いろいろ苦難もありましたが、今は経験を積む時期だと前向きに捉えていましたので、楽しかったです。茨城支社に配属になったのですが、1週間のうち4日ぐらいは東京本社で働いていました。シティホテルに泊まり込んで、クリスマスもカップルがデートをしているのを横目に、一人でホテルの部屋で資料のチェックをするなどひたすら仕事をしていましたよ(笑)。その後、20代半ばに現在の会社に誘われて、職場を移りました。

——現在、代表取締役をなさっているNESIは、原子力エネルギー開発分野で、ソフトウェア開発、数値解析、ITコンサルティングなどに取り組む企業というところですか？

原子力の平和利用という国家プロジェクトに関わっていることで、

OB/OG訪問 立川が聞く。

IT企業の先駆けといえる株式会社NESI代表取締役社長、中村邦浩さんに就学生へのエールを頂きました。

第15期生
(1983年3月 経済学部 経済学科卒業)

中村 邦浩さん
Kunihiro Nakamura

〈取材〉
立川和美 (社会学部教授)



水戸からの電車通学で茨城県の地元の仲間がたくさんできましてね。今でも年に数回集まって情報交換会と言っては飲み会をしています。私にとって人生の宝となる友人ができました。それから、夏休みなどをつかってアルバイトもたくさんしました。デパートの家電売り場やレストランのウェイター、コンサートのスタッフ、地元企業の自動車部品の工場、日本通運(株)の水戸営業所の倉庫で品物の仕分けもしましたね。

——ずいぶんいろいろなアルバイトを経験されたのですか？

どれも面白かったですよ。仕事そのものももちろんですが、アルバイト先で年上の社会人と会話をするを通してコミュニケーション能力を磨けたのは良い経験

でした。

——百合本先生のゼミで学ばれたと伺いました。

いろいろな学生が集まったとてもバイタリティあふれる刺激的なゼミで、生産管理論などを学びました。百合本先生はまだお若くて、先生でありながら私たちの「兄貴分」のような存在でして、本当にお世話になりました。4年生の就職活動の際にも、ゼミで学んだことが大きく影響しましたね。

——新卒でIT関係のお仕事に就かれたことですが、将来は情報サービスなどのOA化が進むとお考えになったのでしょうか？

そうですね。品質向上や業務プロセスの改善などにOA化が大きく関わると考え、そういった関

私自身はもちろん、社員も非常にモチベーションは高いと感じております。私自身は、社員とその家族、協力会社の方々、お客様、地域の皆様などが幸せになれるよう働きたいと考えていますが、そのために、やはり「人」を何より大切にしています。ある時は助けられ、またある時は自分が力になる、そういうやりとりができるのは財産だと思っています。また、社員には、明るくポジティブな発想をしてほしいということ

も最も大きなことだと思います。ですから、決して途中であきらめず、自分に合った会社を見つけ、努力を積極的に続けてほしいです。出来る限り情報を集め、妥協せずに最後まで頑張るといいう気持ちがあれば、きっと自分にあった会社は見つかるはずですよ。

——ありがとうございました。



Wonderful
Life Stories
with
Dr. Kazumi
Tachikawa

折しも台風が接近し、風雨が強まる中にお伺いしましたが、中村さんは温かい笑顔でお迎えください、ほんとに安堵することができました。「お休みの日はどうされているのですか？」と何うと、奥様とお買い物に出られたり、ご両親とお食事をされたりと、専ら家族サービスとのこと。「以前、福井県の敦賀に赴任した時、全く知らない土地で家族が頑張ってくれて、その大切さが身にしみましてね。今では社員にも、『家族は大切に』って言っているんですよ」とのお答えにも、やさしいお人柄が感じられました。

を伝えていきます。特に若手社員は若者らしく、現状維持に甘んじることなく、変化し続ける時代を先取りして、失敗を恐れずチャレンジしてほしいです。挑戦をしてもすべてがヒットするわけではありませんが、必ず次の課題を見つめることができます。それが成長の糧になりますから。

——それが、社員証の裏にある「チャレンジした数だけチャンスはある。チャレンジすれば何かが変わる」という言葉につながるわけですね。それでは最後に、就職活動を控えた流大生にアドバイスをいただけますか？

生涯の中でライフイベントは沢山ありますが、就職はその中で

Company Profile

商号：株式会社NESI (呼称：ネシー)
設立：昭和59(1984)年3月
本社：茨城県ひたちなか市新光町38番地
ひたちなかテクノセンター(3・4階)
代表取締役社長：中村 邦浩
ソフトウェア開発、科学計算・数値解析、研究開発業務における技術支援、ITコンサルティングなど総合情報サービスを提供



2018年度第1回 全学科一斉FD研修会

7

7月10日(火)、龍ヶ崎キャンパスにおいて、2018年度第1回全学科一斉FD(ファカルティ・デイ・ベロップメント:大学教員の教育能力を高めるための活動)研修会が行われました。今回は、2012年の中教審答申を受け求められている大学教育の質的転換に関連し、学生の主体的学び(アクティブ・ラーニング)につながる授業実践例を共有し、今後の授業内容・方法の改善について考えることを目的として開催されました。



全日本学生トライアスロン選手権

8

9月9日(日)に香川県観音寺市で開催された2018日本学生トライアスロン選手権観音寺大会にて、本学の男子団体が3連覇を果たしました。



また、女子個人では杉原有紀さん(スポーツコミュニケーション学科2年)が初優勝を成し遂げました。

両キャンパスで ハロウィンパーティを開催

9

新松戸キャンパス・ICPでは10月25日(木)に、龍ヶ崎キャンパス・CLIPでは10月31日(水)にハロウィンパーティを開催しました。



ICPではハロウィンの歴史についての英語スピーチやゲームなどが行われ、CLIPではハロウィンカボチャの彫刻にチャレンジしました。

クリスマスコンサート開催

10

毎年恒例の吹奏楽部によるクリスマスコンサートが、12月16日(日)に新松戸キャンパスの講堂で開催されました。今年も来場者の方を楽しませるべく試行錯誤された構成で、新旧の名曲を演奏しました。



3つの物流センターを見学

5

11月1日(木)、流通情報学科1年ゼミが参加する企業訪問プログラムを実施し、日立物流首都圏東物流センター、日立物流北柏物流センター、丸和運輸機関の3つの物流センターを見学しました。

いずれの訪問先でも流通経済大学のOBの方々から会社の概要や業務内容などについて丁寧な説明を受けたのち、実際の出入庫・ピッキングなどのモノの流れや作業を見学し、学生は興味深く学んでいました。



小学校で異文化交流会

6

6月27日(水)に国際観光学科2年澤海ゼミでは、交流協定校であるアメリカ南オレゴン大学の学生5名と共に新松戸西小学校6年生のクラスを訪問し、異文化交流会を行いました。



アメリカ人学生が、小学校・食べ物・祝日・ペット・バスケットボールなどについて、日本とアメリカの文化の違いを英語で説明し、その内容を澤海ゼミ学生が6年生の児童に解説。参加した学生からは「貴重な体験となった」「またやりたい」「楽しかった」といったポジティブな声が多く聞かれました。

硬式野球部 秋季リーグ優勝

3

本学硬式野球部が、10月15日(月)に飯能市民球場で行われた秋季リーグ第5節で東京国際大学に連勝し、最終週を待たずして2015年春季リーグ戦以来7季ぶり、30度目の優勝を果たしました。



第53回つくばね祭開催

4

龍ヶ崎キャンパスでは10月27日(土)、28日(日)の2日間にわたって「第53回つくばね祭〜一切合切〜」が開催されました。

今年は初となるキャラクターショーやミスコンも企画され、OB・OGや地域の方々にもご来場いただき盛況のなか終了しました。



日本運動・スポーツ科学学会 第25回大会で学会賞受賞

1

スポーツコミュニケーション学科助教・バスケットボール部ヘッドコーチの小谷先生が、6月17日(日)に開催された日本運動・スポーツ科学学会第25回大会で発表した演題「大学一般教養体育の授業で使用するバスケットボールの開発-ボールの重さとシュート成功率の関係に着目して-」がオーラル賞を受賞しました。

このバスケットボールは、RKU BASKETBALL LAB(バサラボ)の学生との実験を経て、開発されました。



企業研究ゲームマザーズ 一合同ゼミプレゼンテーション大会

2

11月7日(水)、今年度で6回目となる経営学科独自のイベント「企業研究ゲームマザーズ一合同ゼミプレゼンテーション大会」が新松戸キャンパス講堂にて開催されました。

経営学科では1年次に全員が東証マザーズ上場企業を題材として株式投資ゲームを行い、リアルな株価の変動を手掛かりに企業経営を分析します。本大会はここまで培ってきた企業分析の成果を披露する場として位置付けられており、今年度は、龍ヶ崎キャンパスの1年ゼミ2クラス、新松戸キャンパスの1年ゼミ8クラスから、各ゼミ1代表(個人またはグループ)が出場しました。堂々としたプレゼンテーションが行われるとともに、活発な質疑応答が繰り返され、会場は終始熱気に包まれていました。



連携市民大学講座

20

松戸市教育委員会と連携し、新松戸キャンパスにて市民大学講座を下記のとおり開催しました。



- テーマ「働き方の過去、現在、未来」
- 日程:10月13日(土)、10月20日(土)、10月27日(土)[全3回]
- 時間:10時～11時30分 ●費用:無料
- 講師:経済学部 長澤勢理香 助教(第1回)
経済学部 参鶴篤司 准教授(第2回)
経済学部 秋保親成 准教授(第3回)

「2018年ジュニアスポーツアジア交流大会」で留学生が通訳ボランティア

17

8月に開催された「2018年ジュニアスポーツアジア交流大会」において、ベトナム出身のブミンドックさん(流通情報学科3年)が卓球ハノイチームの通訳ボランティアを務めました。

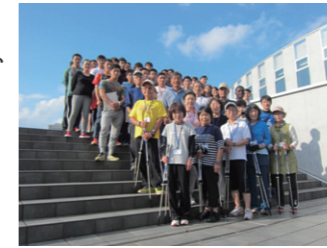


大会当日はもちろん、練習期間や東京観光にも同行して、日本滞在中のジュニア選手をサポートし「ただ通訳するだけでなく、どうやったら人の役に立てるのかを考え、実践できるようになりました」と、大きな気づきを得たようです。

龍流連携事業実施

14

龍ヶ崎市との連携事業(龍流連携事業)として、スポーツ健康科学科3年のゼミが合同で、6週間にわたり地域住民の方々を対象とした運動教室を実施しました。



2010年より毎年実施しているこの試みは、教員による助言の下、学生が主体となって運動プログラムの考案から担当し、寝たきりを防ぐための筋力トレーニングや動脈硬化予防に効果的なウォーキングの方法を地域住民の方々に指導しています。

留学生ゼミの合同発表会と企業訪問

11



11月10日(土)、流通情報学科留学生ゼミの合同発表会と企業訪問が実施されました。合同発表会では、母国の料理や物流の紹介、地球温暖化についてなどさまざまなテーマで日本語による発表が行われ、ゼミ単位での表彰が行われました。企業訪問ではキリンビール取手工場へ見学に行き、ビールの製造工程に興味深く見学したあと、できたてのビールやソフトドリンクを試飲しました。

第43回ヨーロッパ研修旅行

21

2019年2月13日(水)からローマ、フィレンツェ、ニス、パリを10日間で巡るヨーロッパ研修旅行を開催します。大学生の今こそ、自分の目と足で本物に触れるチャンス。PCやスマホでは味わえない体験がそこにあります。



- 旅行期間:2019年2月13日(水)～2月22日(金)
- 旅行先:イタリア・フランス ※最小催行人数:20名

流通経済大学出版会から新刊のお知らせ

18

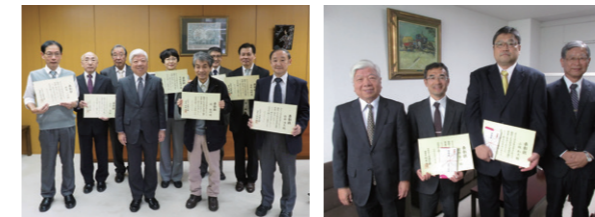
『改訂版 観光と情報システム』中谷秀樹 編著/清水久仁子 共著(流通経済大学出版会)



2018年7月改訂・A5判 並製 253ページ
観光立国の現状と、今後の発展に必要な航空輸送事業を中心とする交通システム、宿泊関連システムを解説。GDS(グローバル・ディストリビューション・システム)の役割と将来動向についても紹介しています。

永年勤続表彰

15



30年にわたって貢献してきた本学及び付属柏高等学校の教職員に、野尻俊明理事長より永年勤続の表彰がされました。今回表彰されたのは以下の9名です。

- 【大学】
茅原道昭さん(社会学部教授)、佐藤尚人さん(社会学部教授)、沢谷豊さん(社会学部教授)、関哲行さん(社会学部教授)、都築一治さん(社会学部教授)、中村美枝子さん(社会学部教授)、藤本英城さん(入試センター事務部長代理)
- 【付属柏高校】
小坂和久さん(教諭)、関根賀一さん(教諭)

留学生3人が「第21期まつど国際文化大使」に

12

9月に行われた第21期まつど国際文化大使の委嘱式において、ベトナム出身のブイティフォンクインさん(国際観光学科3年)、マレーシア出身のチャイカイエンさん(流通情報学科2年)、中国出身の楊二艶さん(国際観光学科3年)の3人が大使の委嘱を受けました。まつど国際文化大使は、松戸市内で開催されるイベント等で、自国の文化・生活・習慣・芸術などを紹介する活動を行います。



後援会総会開催

22

【告知】
本学では、学生の教育指導に関して、大学と家庭との連携を密にするとともに、大学の発展向上を図ることを目的に、在学生のご父母の皆様を会員とする「流通経済大学後援会」を設置しています。入学式に合わせて、後援会総会を開催いたします。



- 日時:2019年4月1日(月)入学式終了後12～13時を予定
- 場所:龍ヶ崎キャンパス 4号館 411教室
- 議事:2018年度決算、2019年度予算、その他

ロジスティクスシンポジウム開催

19

【告知】
本学では、従来からロジスティクスに関する専門的な教育、研究を進めてきました。今回は、新たな分野でのロジスティクス展開という視点から、「スポーツとロジスティクス」というテーマで、シンポジウムを開催します。



- 日時:2019年2月1日(金) 13時30分～16時30分
- 会場:アルカディア市谷(私学会館) 3階「富士」
- 内容:基調講演、本学 研究ブランディング事業の紹介など
※内容など一部変更する場合があります。

八重山毎日新聞が、学生の石垣島エイサー参加を取材

16

本学の相坂穂乃さん(経営学科3年)と、田代結貴菜さん(社会学科3年)が、沖縄県石垣島の地域芸能であるエイサーに参加したことが8月25日(土)付の八重山毎日新聞で紹介されました。二人は、2006年より明石エイサーの研究を行う教育学習支援センター草山洋所員の引率のもと今回参加し、他大学の学生とも交流しながら、自身の研究分野に活かす知見を得たようです。



北京で国際交流プログラムを実施

13



9月、中国・北京において、北京物資学院との交流協定30周年を記念した国際交流プログラムを実施しました。プログラムには同学院の物流学部、外国語学部の学生と、本学国際観光・ビジネス法学科の学生が参加し、中国と日本の観光・物流・交通・歴史などについての意見交換や、北京市内の観光研修などを行い、実りある国際交流となりました。

【編集後記】
●「平成」が終わろうとしている。恐らくこれが平成最後の「RKU Today」となるであろう。平成生まれの学生が大学に入ってきた時は、もうそんな時代になったかと驚きと焦りを感じたものだったが、それもついこの間のことのようにある。
●インターネットが普及し、出席も小テストもスマートフォンで行うなど学生を取り巻く環境は急速に変化している。しかし学生の本質はどうかと考えると、それほど変化しているわけではないように思われる。

●そもそも時代が(少なくとも元号が)変わったからといって人間が簡単に変わるものではない。それよりも、例えば1年、半年いや1か月でも留学をした人はその後の人生が大きく変わるほどの経験をするだろう。
●時代に流されるのではなく、自分で時代を切り開いていく気概を持った学生が増えてくれることを期待したい。

(編集子)

2019年度入試より、 流通経済大学は Web出願で 受付します。

流通経済大学では、すばやく便利で簡単な「Web出願」を導入。
受験生のみなさんをサポートします。

対象入試

- 一般入試 (3科目型、2科目型、得意科目型)
- 奨学生選抜入試 (3科目型、大学入試センター試験利用型)
- 大学入試センター試験利用入試 (3科目型、高得点2科目型)

入学検定料35,000円で最大16回受験できます。

WEB出願のポイント

Point.1

入力漏れや
書き損じの心配なし!

自動チェック機能付きなので、入力漏れがあってもチェック機能が働き、安心です。もちろん入力いただいた個人情報もシステムで安全にガードします。

Point.2

24時間出願可能!

出願期間内であれば24時間いつでも出願可能。パソコン・スマートフォン・タブレットなどで画面の指示に従って必要事項を入力するだけなので、願書を請求し、記入する手間が省けます。

Point.3

入学検定料の
お支払いもスピーディー!

入学検定料のお支払いは、コンビニなどから簡単にできます。クレジットカード、ネットバンキングを利用すれば、コンビニなどに出かける必要もなくお支払いが可能です。

RKU 流通経済大学

学報 **RKU Today vol.36** 2018年12月発行
編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学 企画広報室
茨城県龍ヶ崎市120 〒301-8555 TEL:0297-64-0001(代表)

